西おきたま米づくり情報 No. 3

令和４年４月２６日
西置賜農業技術普及課

天気にあわせた、きめ細やかな管理の徹底！

今後２週間の気温は、４月 29 日までは高く、その後は平年並～低く推移する予報です。（気象庁、２週間気温予報、4/25 更新時）。

育苗期間中は、こまめに温度を確認し、遮光資材（高温晴天時）、保温資材（低温時）等の活用や、ハウス開閉の調整で、天気にあわせた管理を徹底しましょう。

1　適切な育苗管理

育苗ハウス等の温度管理を徹底し、充実した丈夫な苗に仕上げましょう。

育苗後半の温度管理

○徒長苗は、活着、分げつが遅れるため、苗を伸ばしすぎないように注意しましょう。
○夜間の管理は、強い低温がない限りはハウスを開放し、外気に慣らして管理しましょう。

【育苗ステージごとの適切な温度と注意点】

	昼間	夜間	注意点
出芽時	30～32℃		○無加温出芽は出芽を揃えることが重要。きめ細やかな管理を行う。
緑化期（出芽後２～３日）	25℃	15℃	○外気温が 25℃以上の日は要注意。午前中の早い段階にハウスを開ける。 ○低温時には保温に努める。 ○翌朝に霜が予想される場合は夕方の早い段階にハウスを閉める。
緑化期以降	20～25℃	8℃以上	

育苗期の水管理

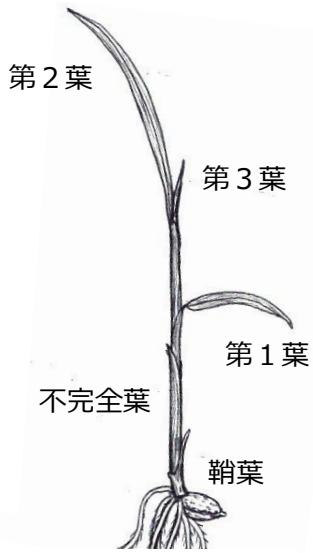
○**かん水は午前中に１回が基本です。**夕方のかん水は根張り不良となるため避けましょう。
○プール育苗では、1.5 葉期からハウスを開放し、入水します（上限は床土の高さまで）。2 葉期以降は、常時湛水とします（箱の上 1cm 程度の水深、最大でも草丈の半分以下）。苗が伸びやすくなるため、ハウス内の気温は低めに管理しましょう。

育苗期の追肥

○適切に追肥を行い、苗の老化を防止しましょう。
○育苗土に緩効性肥料（育苗一発肥料など）を使用した場合には、追肥は不要です。

【追肥の時期と追肥量の目安】

苗の種類	育苗期間	追肥時期	追肥量の目安
稚苗（2.5 葉）	20～25 日	1.8 葉期	窒素成分が 10%の液肥１㍑に水を加え 100 ㍑に希釈し（100 倍希釈）、１箱当たり１㍑を散布。
中苗（3.5 葉）	30～35 日	１回目：2.0 葉期	
		２回目：3.0 葉期	



イネ２葉期

育苗期間中の病害対策

○出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。

カビの発生や、苗の生育異常がみられる場合には、早めにご相談ください。

【育苗期間中に発生する病害と対策】

病原菌	主な症状		発生条件	発生抑制のポイント
リゾプス	覆土を覆う白いカビ		出芽時の高温多湿	○33℃以上の高温、多湿にしない
フザリウム	根のまわりに白色～淡紅色のカビ		出芽～緑化期の低温、湿度の変動が大きい	○低温をさけ、適切な温度を保つ ○過湿にしない
ピシウム	カビは見えない、ムレ苗 ２葉期頃に葉の萎凋症状			
トリコデルマ	床土や籾の修正に白色～青緑色のカビ		水分不足 育苗土の低 PH	○33℃以上の高温、多湿にしない
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第２葉葉身基部の黄白化、枯死、坪枯れ		高温多湿 育苗土の高ｐＨ	○高温多湿にしない ○発生した場合は苗速やかに処分

2　適期の田植えと適切な管理

田植えの適期は５月１５日～２０日頃です。**【つや姫・雪若丸の田植えは５月２０日まで】**

田植時の留意事項

○田植え作業は、低温や強風の日をさけ、天候の良い日を選んで行いましょう。

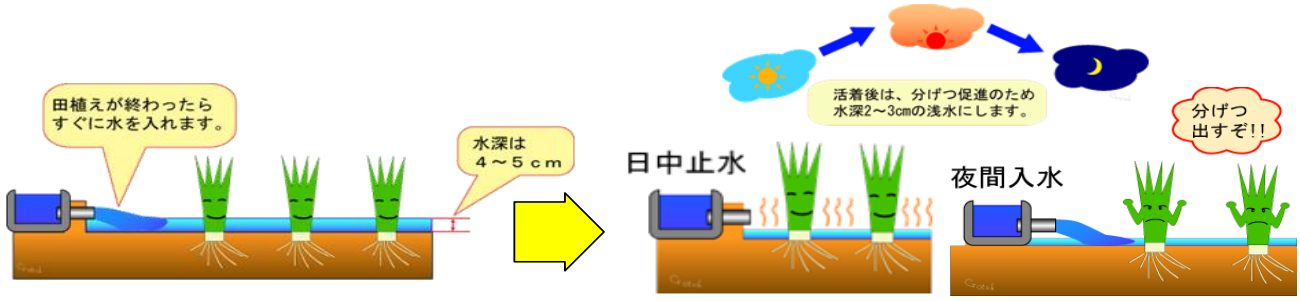
○**栽植密度は 70 株/坪、株当たり 4～5 本**を目安とします。

○**植付け深は 3cm 程度**を基本とします。（深植えは分げつの発生を抑制します）

○箱施用剤や除草剤は、ラベルを良く確認し、間違いのないように使用しましょう。

田植え後の水管理

○田植え直後は、４～５ｃｍ程度の水深で活着を促進させます。活着後は、２～３ｃｍの浅水管理とし、日中止水・夜間かんがいの保温的管理で、分げつの発生を促進させます。



春季農作業事故防止啓発運動　展開中！　**トラクターの事故に要注意！**

○春先はトラクター運転で感覚が取り戻せておらず、操作ミスが原因の事故が多くなる時期です。焦らず、気もまず、計画的に作業を行いましょう。

○安全確認と予防対策（ブレーキ連結等）で公道でのトラクターによる事故を防ぎましょう。